

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞ イチゴ

＜産地の現状・課題＞

イチゴのほとんどが生食されており、消費者の安全意識が高く、生産者の化学合成農薬使用削減に向けた生産者の意識も高まっている。

以下の①～③を解決することで、化学農薬の使用量低減を目指す。

- ①ハダニ類の薬剤感受性低下が問題となっており、化学合成農薬に代わる防除対策が求められている。
- ②灰色かび病は、施設内が多湿となる秋から春に多発する。施設内の温湿度の推移とムラを把握し、環境改善することで、発生リスクを低減したい。
- ③炭疽病は、育苗期の発生が増加している。発生初期の対応が遅れることで、感染が拡大するため、感染株の迅速な診断し、拡大リスクを低減する必要があるが、生理障害や他病害との判別が難しく、診断が遅れる場合がある。

2 検討体制

＜愛知県組織と関係機関の役割＞

- ・ 農業経営課(事務局)
- ・ 農業革新支援センター(実証ほ調整、技術指導、検討会の開催、栽培マニュアルと産地戦略の作成、調査)
- ・ 普及指導センター(JA及び農業者との調整、実証ほの進行管理、技術指導、検討会の参加)
- ・ 農業総合試験場 環境基盤研究部(研究成果の提供、技術指導、検討会での助言)
- ・ JA(農業者との調整、技術指導、調査補助)
- ・ 農業者(実証ほの栽培管理、技術の検証)
- ・ JAあいち経済連(資材情報等の提供)

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量削減	栽培期間全般 病害虫管理	＜取り入れる技術＞ 天然物質由来農薬及び生物農薬等の活用による害虫防除技術
		＜見込まれる効果＞ 生物農薬利用による化学農薬使用削減

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量削減	栽培期間全般 病害虫管理	＜取り入れる技術＞ ICT機器を活用した施設内環境の改善による病害発生リスク低減技術
		＜見込まれる効果＞ 環境改善による化学農薬使用削減

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量削減	育苗期 栽培前半期 病害虫管理	＜取り入れる技術＞ 迅速診断による炭疽病拡大の低減技術
		＜見込まれる効果＞ 炭疽病の感染抑制による化学農薬使用削減

4 活動内容(予定)

＜活動内容＞

- ・ グリーンな栽培体系の検証
- ・ 栽培マニュアル、産地戦略の策定
- ・ 情報発信